

シンポジウム

シリア内戦と文化遺産

世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援

2016年 **11月23日(水)** 13:00 ~ 17:40 **入場無料**

東大寺 金鐘ホール

事前申込み不要

【主催】文化庁、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所

【後援】筑波大学人文社会国際比較研究機構

お問い合わせ

東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 安倍 雅史

Tel: 03 - 3823 - 2427 E-mail: abe05@tobunken.go.jp

写真提供: 仲田大人、Robert Zukowski (ロバート・ズコウスキー)

シンポジウム シリア内戦と文化遺産

—世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援—

開催趣旨

シリアでは、2011年3月に起きた大規模な民主化要求運動を契機に内戦状態に突入し、すでに5年の月日が経過している。シリア国内での死者は25万人を超え、480万人以上が難民となり国外へ逃れている。

シリア内戦下では、貴重な文化遺産も被災し、国際的に大きなニュースとして報道されている。とくに昨年8月から10月にかけて起きたIS（自称『イスラム国』）による世界遺産パルミラ遺跡の破壊は、日本国内でも大々的に報道され注目を集めた。パルミラ遺跡は、シルクロードの中継地として前1世紀から後3世紀にかけて栄えたオアシス都市の遺跡である。

パルミラ遺跡は、2015年5月からISに実効支配されていたが、2016年3月にシリア政府軍が奪還し、その後、ポーランド人研究者2名がシリア政府関係者に同行し、現地調査を実施している。彼らは、パルミラ遺跡とパルミラ博物館の被災状況を入念に記録したほか、被災した博物館の収蔵品に対し応急的な保存修復を行い、その後、ダマスカスまで緊急移送している。

今回のシンポジウムでは、現地で生々しい状況を目にしたこのポーランド人研究者ほか、国内外の専門家やユネスコ職員が一堂に会し、パルミラ遺跡を含む被災したシリアの文化遺産の復興に向けてどのような支援が効果的なのか、討議を行う。

プログラム

13:00-13:05 開会挨拶

西村 康（ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所）

13:05-13:10 趣旨説明

森本 晋（奈良文化財研究所）

13:10-13:30 シリアにおける文化遺産の保護：現状と課題

山藤正敏（奈良文化財研究所）

13:30-14:00 日本によるシリア調査の歴史

常木 晃（筑波大学）

14:00-14:30 パルミラ遺跡の調査から内戦終結後の取り組みを考える

西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所）

14:30-14:45 休憩

14:45-15:15 パルミラ博物館レスキュー事業

ロバート・ズコウスキー
（ポーランド科学アカデミー考古学民族学研究所）

15:15-15:45 パルミラ博物館所蔵の石彫を対象とした緊急保存修復 2016

バルトシュ・マルコヴスキー（保存修復家）

15:45-16:15 最新技術とシリアの考古遺産

ホマーム・サード（ソルボンヌ大学）

16:15-16:45 紛争下における文化遺産の保護：

ユネスコによる活動とプロジェクト、将来計画

ナーダ・アル＝ハッサン（ユネスコ世界遺産センター）

16:45-17:00 休憩

17:00-17:30 パネル・ディスカッション

司会：西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所）

17:30-17:40 閉会挨拶

※使用言語：日本語・英語（同時通訳付き）

会場

東大寺 金鐘ホール

〒630-8208 奈良市水門町100番地

（※施設内に駐車場はございません。）

近鉄奈良線「奈良駅」から
市内循環バス「大仏殿春日大社前」下車
徒歩5分

